

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400156		
法人名	医療法人安心会		
事業所名	愛聖グループホームベガサス		
所在地	沖縄市古謝2丁目16番8号		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町村受理日	令和元年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kani=true&JigvosvoCd=4790400156-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成31年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所では、医療連携が強みです。認知症が障害となり体調不良の訴えが難しい場合もある為、入居者の日々の健康観察を行う事で体調不良時、緊急時に法人クリニックと連携を取り、Drコールにて相談や指示が確認できる体制であるため利用者やご家族が安心して日常生活を送られるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、医療法人が母体で平成29年7月に開設され、小規模多機能型施設を併設している。両施設の利用者は、昼食と日課活動を一緒に過ごし、職員は互いに協力している。事業所は地域自治会の賛助会員で、地域の認知症カフェに職員が準備段階から関わり、当日はスタッフとしても利用者と一緒に参加している。事業所に友の会(家族会)があるが、家族の要望により認知症の利用者を抱える家族の悩みを職員と家族、家族同士が自由に話し合えるお茶会を開催し、その中で利用者の24時間生活の様子を映像で報告し、認知症の勉強会も実施している。夜勤専属の職員からは「利用者の昼間の様子がわかって良かった」の声がある。職員の意見で、排泄の確認ができるようにトイレ洗浄を手動にする、ベンチを設置する等、管理者は職員と共に業務改善に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療法人安心会の理念、「医療介護を通して人々の幸せに貢献する」を法人内研修や部署内勉強会などで共有し意識的に入居者が安全で、安心できる生活がおくれるように努めている。	管理者と職員は、理念の「開かれた心」で地域に情報を公開し、地域住民と一体となって安心・信頼できる介護を目指している。「聖なる心」と「愛する心」で1日1回は利用者全員の話を傾聴する等、利用者を尊重し個別ニーズに対応する支援に努めている。理念は、掲示して「介護の心得」と一緒に毎朝唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動においては近所のスーパーへ買い物や公園や施設近辺まで散歩に出かけたり、自治会主催の防災訓練や夏祭り等年1回～2回へ事業所として参加している。利用者、ご家族も参加出来ている。地域の中学校から職場体験の受け入れを行っている。	事業所は自治会の賛助会員で、地域に事業所便りを発信し、自治会だよりで地域活動を把握して自治会主催の防災訓練等に参加している。一人で外に出ようとする利用者を自治会に登録し、地域の協力を得ている。認知症の「おきはカフェ」に事業所は準備段階から関わり、当日は利用者も一緒に参加し、職員は案内や相談等のスタッフも務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・沖縄市認知症カフェ等へ事業所で参加して、入居者の生活状況や日頃の活動状況など作品作り風景の写真貼り出しやパネル等を掲示して認知症理解の普及に努めている。 ・不定期開催ですが、家族交流会(お茶会)を活用してのミニ勉強会を行ったりパンフレットを配布している。 ・地域の中学校から職場体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況や相談件数、空き待ち件数、入居者生活状況、事故報告・対応について意見交換を行い、再発防止、様々なご意見を参考にサービス向上に努めている。	運営推進会議は、家族と市や地域包括支援センター職員、地域の保育園と薬局の方が参加して年6回、小規模多機能事業所と一緒に開催している。事業所は外部評価の予定や事故等も含めて報告し、意見交換している。台風で3日停電した際、防災について話し合い、補助金の情報を市と相談し、発電機の購入申請をしている。議事録は掲示されている。	運営推進会議への利用者の参加、及び知見者を構成委員として選任することが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	沖縄市職員、地域包括支援センター職員へ2ヶ月毎の運営推進会議出席依頼を行い、状況報告や情報交換などを行い協力関係ができるよう努めている。	運営推進会議に、市や地域包括支援センターの職員が毎回参加している。会議で、一人歩きの認知症者の特徴は「キョロキョロ・オドオドしている」や「長い距離を草履で歩く」等の説明があり、「上着等にアイロンプリントをして認知症の登録者と認識できる安心登録制度」の活用等の助言がある。研修案内や防災関連情報等はメールで提供される。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を作成し、法人全事業所で身体拘束をしないケアに努めている。法人全体勉強会にて共有している。参加出来なかった職員へ資料配布を行い周知できるように取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための指針が作成され、内部研修を2回実施し、外部研修も受講しており、拘束はない。運営推進会議の中で検討委員会も開催している。利用者の状態に応じて見守り回数を増やし、センサーと転倒予防マットの活用もある。利用者が出て行こうとするときは職員がそっと声をかけ、一緒に散歩に出かけている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、法人内研修や部署内勉強会を実施。虐待防止法について全職員が理解し虐待のない介護ケアに努めている。	高齢者虐待防止法と権利擁護について、併設事業所と一緒に研修を実施し、通報義務についても職員に周知している。管理者は年2回の面談や日々の申し送り、ミーティング等、機会あるごとに虐待のない対応について職員に説明している。課題としている高齢者虐待防止対応マニュアルの作成に期待したい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する施設内外の研修へ参加できるよう努めている。現在、対象者がいないため制度の活用に至っていない状況です。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書について契約締結前に書類を渡し確認してもらいます。契約締結時に内容の詳細について読み合わせを行い、質疑あればわかりやすく説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や利用者、ご家族の意見やご要望について家族、職員のコミュニケーションをとるように心がけ日々の生活の中や面会時に利用者や家族が気軽に意見や要望が話せる環境を作りそれらを反映した支援が出来るように努めている。	職員は、利用者の買い物や外食等の希望に応じ、「美容室に行きたい」には訪問美容室で対応している。家族の要望で敷地内に自動販売機を設置している。「他の家族と交流したい」の声に、家族交流のお茶会を企画して、利用者の24時間を映像で家族に報告している。お茶会は、家族同士や職員との交流、認知症の勉強会の場となり、家族から好評を得ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の気づきなど毎日の朝、夕の申し送りや月1回の部署内ミーティングで意見交換できるようにしている。すぐ取り組める内容については改善、工夫し実践を行う等、意見、提案を受けて、業務改善を行っている。	毎月のミーティング前に職員に業務改善アンケートを実施し、集約して優先順位をつけ、ミーティングで検討して改善している。これまでに、役割分担表を見える化して貼り、排泄の確認ができるようにトイレ洗浄を手動にし、玄関前にベンチの設置やネギやニラなどの野菜を育てる等、職員の提案による改善をしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課(個人面談)を実施し職員個々の勤務状況、活動状況、勉強会、研修参加状況など、個々の目標における振り返りを行い、職員がやりがいと目標を持つような環境作りに努めている。	全職員に毎年(夜勤者は年2回)、健康診断を実施するとともに、ワクチン接種とタミフル剤の内服等でインフルエンザの蔓延防止に取り組んでいる。年2回、職員の振り返りをもとに面談を実施する中で、個別に研修や資格取得の促しをしている。研修受講は出勤扱いとし、資格取得者には手当の支給や正職員への登用もある。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修の機会に職員の派遣を行い学ぶ機会を提供している。・日々の業務の中で、法人内事業所と連携し職員へ移乗動作等の相談や指導を行っている。 ・法人全体勉強会、部署内勉強会へ参加促しを行っている。 ・キャリアアップを目的に資格取得に向けての取り組み提案		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・沖縄県グループホーム協会に加入し研修や意見交換会等へ参加し情報収集や知識向上に努めている。 ・中部地区のグループホーム連絡会へ積極的に参加し、ネットワーク作り、意見交換や相互訪問を行いサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを取るよう心がけている。また、本人の生活歴や背景を考慮し、本人の困りごとや訴えを傾聴、尊重し受容的な対応を意識し職員との情報共有を行い安心、安全に過ごせるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回、相談時に家族の不安や困りごと、要望など具体的に確認している。利用者のアセスメント作成時に内容について説明し不安感の軽減、解消できるよう話し合いを行うように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や入居申し込み時に施設サービス内容を説明しご本人、家族のニーズを確認して情報提供するなど他のサービス利用を選択できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家庭的な雰囲気作りを意識し会話や利用者の意欲の引き出し、共に食事作りや後片付け、台ふきなどを行っている。また、他者交流できるよう話題の提供を行い温かく見守り関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居申し込み時、本契約締結時において、ご家族の役割を説明し、面会や気分転換の外出などの協力依頼を行い、家族の絆を深められるように連絡を密にして支援しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人などへ面会の依頼等、キーパーソンへ声掛けをするように努めている。	地域社会での関係は、利用開始時に本人や家族から聞いて把握し、日々の関わりの中でも確認して個別の支援に努めている。外国出身の利用者には宗教のお祈りに出かける等の支援をしたが、認知症が進み日本語が話せなくなっからは家族と連携して支援している。空手大会で来沖した母国の選手が事業所で演武をしたことがある。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の日常生活の過ごし方や他利用者との関係を把握して、交流が持てるように話題の提供やトランプ遊び、歌会等レクリエーションを設けて対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後については必要に応じて情報提供や連絡を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを取り、昔話や日常生活を送る上で、本人の望む暮らし等やりたい事を意思確認し意思表示が困難な方はご家族へ相談、利用者の望む暮らしが実現できるように努めている。	職員は、日々の関わりの中で利用者の思いや意向を把握し、生活リズムに強いこだわりのある利用者への支援にも努めている。管理者と職員は、日々の観察の重要性を共有し、把握が困難な場合は、個別の表情や動きから推測して言葉をかけている。立って歩き出す方にはそれとなく「トイレなの?」、足を指さす場合は「痛いのか?」等と声をかけ、反応を見ながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の介護サービスの利用状況を情報収集し把握する事で、本人の出来る事、好きな事等が継続できるように支援するとともにグループホーム入居後もアセスメントを基にこれまでの暮らしが維持できるように困りごとの把握や生活の様子を観察している。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを欠かさず実施する事で心身の健康状態を把握するように意識して取り組んでいる。一日の過ごし方については、生活リズムが整うよう配慮し、離床促し、他者交流、清掃活動、食事の準備など役割を持つことを意識して取り組み状況把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意向を尊重し、アセスメントやご家族、職員の気づきなどの意見を反映した介護計画を作成しケアを実施、モニタリングを通して課題や困りごとについて修正、変更できるように柔軟に対応していくように努めている。	介護計画は、日々の記録からモニタリングを行い、1年に1回は見直すこととし、利用者の状態変化に応じて随時の見直しも実施している。担当者会議に利用者と家族も参加し、本人や家族の希望に沿った計画を作成している。転倒してリハビリが必要となった利用者に、法人の理学療法士の協力を得て個別計画を作成して支援し、車イスから歩行器使用へと改善した事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況や心身の健康状態について観察し申し送り簿、介護日誌へ記録するように努めている。気づきや本人の希望、要望については朝、夕のミーティングで職員間で情報共有し介護計画の見直しに役立てるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画書に沿って介護サービスを提供しているが、本人、家族の新たな要望等については適宜柔軟に対応するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>医療連携、自治会行事への参加、関連施設での園児交流会等へ招かれ参加。公園やスーパーへ散歩に出かけ心身のリフレッシュが出来るよう支援している。</p>		
30	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎日の健康チェックを行い、体調不良時はご家族へ連絡を取り、状況経過報告し、受診の促しや家族対応が困難な場合はかかりつけ医へ、報告相談し緊急往診等で対応できるようにしている。</p>	<p>利用者はかかりつけ医を継続受診している。受診時は、1か月分の支援経過記録を家族を通してかかりつけ医に情報提供している。受診結果は、医師からは書面で、家族からは口頭で報告を受け、職員はミーティングで情報を共有している。特定健診は、職員が同行している。ほとんどの利用者が訪問診療を受けている。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日の健康状態や気になる事などを併設のオンライン看護職員へ朝、夕のミーティングで情報共有し相談や助言を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後はご家族、入院先の地域連携室と経過状況等連絡を取り合っ、連携情報共有し退院調整に応じるよう努めている。</p>		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重症、終末期ケア対象者はいないが、入居契約時に医療ニーズが高くなった場合や週末期ケアが必要になった場合は本人、ご家族の意向確認を行い、主治医の指示のもと看取りケアについても取り組みが出来るよう方向性については説明を行っている。	重度化や終末期に向けた方針や対応については、利用開始時に指針を説明して本人や家族の意思を確認している。利用者や家族の要望に添えられるように、今後は看取りを実施する方向で検討している。職員は、利用者の気持ちを汲み取るために緊急搬送時のバーチャルリアリティ研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体勉強会で、関連医療機関の看護指導のもとCPRなどの講習で実践訓練を受けている。また、変則勤務の為講習会に参加できない職員は、緊急時対応マニュアルにて自己学習の促しを行っている。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施、総合訓練を行っている。また、地域自治会の災害避難訓練へ利用者と参加し避難経路を確認を行っている。全職員の参加が難しくマニュアルにて手順や準備するものを確認できるように自己学習の促しを行っている。	火災や地震、台風について、非常災害発生時対応マニュアルが作成され、昼間想定訓練のみは実施されている。台風時に3日間停電し、洗面台の自動停止蛇口が使用不能となり、道路が冠水して食事が届かない等の問題が発生している。事業所に食料の備蓄が1日分しかなく、職員が自宅で炊飯して事業所へ運ぶ等の緊急対応をしている。	夜間想定避難訓練の実施、及び災害に備えた備品の準備、利用者職員分の食糧の十分な備蓄が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は法人理念を意識し、利用者の意思決定を尊重するよう意識して言葉かけの工夫や利用者の残存能力の引き出しにつながる支援をするように努めている。	利用契約書に利用者の基本的権利が明記され、利用者の個人ファイルは鍵付きキャビネット管理されている。職員は、利用者を名字で呼び、言葉かけは、選択肢を用意して利用者が自己決定できるような問いかけをしている。入浴時は、脱衣後にタオルをかけ、排泄支援時は、耳元で小声の声掛けを行う等の配慮をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がやりたい事、やりたくない事をなど意思表示でき、自己決定できるように声掛けを工夫して確認できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望、要望を優先し体調やタイミングを確認して声掛けや支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活では衣類等は利用者を選択してもらうよう支援している。また、ご家族と外出できる機会に定期的に理美容室へお連れしてもらい本人の希望で散髪している。ご家族対応が困難な場合は訪問散髪等で対応している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、野菜のしたごしらえ、食器の片付け、台ふきなど会話をしながら職員とともに行っている。	朝夕は職員が調理し、昼食は業者からの配食となっている。利用者は、もやしの根切りや食材の皮むき、食器洗い、テーブル拭き、おしぼりの準備等を日課としている。バーベキュー時にノンアルコールビールを楽しみにする利用者もいる。食卓には庭のねぎぼうずが飾られ、家庭的で季節が感じられる場となっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を楽しんでもらうように盛り付けや栄養バランスを考えたメニューが日替わりになっている。毎食後に摂取量、水分摂取について記録把握するように努めている。自己摂取困難な方については付添介助にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に利用者全員の口腔ケアを促し誤嚥性肺炎の予防や口腔内の清潔保持、口腔内の状態を確認している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	点呼・排泄チェック表を活用して定刻誘導の声掛けをするなど個々の排便リズムを把握するように努め、個々に合わせて定刻誘導や排泄リズムの把握に努め、失敗やおむつ内排泄を減らすよう努めている。	排泄支援は同性介助を基本にしている。利用者個々の排泄パターンを把握し、昼間はトイレ排泄を支援している。夜間は、ポータブルの利用者もいるが、利用者によっては睡眠を優先するためにパットをナイト用に切り替えて支援している。尿路感染症の予防のため、水分を十分に摂取させ、尿量を増やすよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	点呼・排泄チェック表を活用して定刻誘導の声掛けをするなど個々の排便リズムを把握するように努め、便秘傾向の方へ水分摂取の促しや散歩や体操など個別に対応する。また、かかりつけ医へ相談し内服指示をもらうなど対策を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴サービスは週3回行い体調に留意して提供している。また、ご家族から受診時や日中失禁などがあればその都度対応、時々拒否見られる方もいますが、無理強いせず工夫して臨機応変に対応している。	入浴は週3回を基本とし、利用者の体調や希望により柔軟に対応している。寒い日や億劫が入浴を拒否する場合には、無理強いせずに日程を調整している。浴室は、ヒーターやクーラーで温度調整をし、着替えは職員と一緒に選んでいる。好みのシャンプーや入浴剤を使用し、入浴後に保湿剤を塗る利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせてその時々、自室ベッドやソファ、マッサージチェアで休息できるように支援している。夜間については個々の入眠時間に合わせ安心して入眠できる環境を整え(気温管理、消音、消灯)安眠できるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬については、薬説明書等を用いて作用、用法、用量の理解をするよう職員間で情報共有に努め、症状の変化等を観察し主治医へ往診時や定期受診時に経過報告している。服薬拒否などがあれば主治医へ相談し対応について助言や指示を仰いでいる。	運営推進会議委員である薬剤師による「薬の管理方法や薬との食べ合わせ」について事業所内で勉強会を実施している。外部研修「介護職のための薬の知識」を受講した職員がいる。他の利用者の薬を誤って飲ませてしまった事故について対応策を検討し、トリプルチェックする支援体制に変更する等、取り組みを強化している。	安全な服薬支援のために、服薬マニュアルに則った対応が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴から利用者個々の趣味活動や好きな事、日課で散歩、他者交流など対応している。日常生活のできる事を見極めて役割(食事準備、片付け、台ふき、ゴミ集め等)を持てるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や併設施設と合同で花見ドライブへ出かける等外出の機会を設けている。また、利用者の要望についてはご家族へ連絡し面会の協力依頼を行い、ご家族と共に外食や買い物など、外出機会が持てるように支援している。	利用者は、近隣公園への散歩やスーパーでの買い物に出かけている。イージーウォーカーで事業所周辺の散歩を日課とする利用者や隣のデイサービスを訪ねる利用者、家族の協力で外食に出かける利用者もいる。ドライブや初詣、桜祭り等に併設の小規模多機能と合同で出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理は行っていないが、希望がある方については、ご家族同意で持たせていますが具体的に使える事はなく持参する事で安心している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物、はがきなどが届けばご家族確認の上、手渡し電話は希望があればいつでも対応するよう支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分においては利用者が安心し快適に過ごせるように利用者の作成した手工芸作品等を掲示したり、観葉植物などを置き視覚から季節感を感じられるように努めている。	玄関には、フェイクフルーツや空気洗浄効果が期待できる光触媒の観葉植物や植木等が置かれている。食堂兼居間は、エアコンと加湿器で湿度調整を行い、インフルエンザ予防として、空気の入れ替えができる換気扇が設置されている。廊下に設置されている平行棒で歩行訓練をする利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和元年 5月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテレビや音楽が楽しめるように配置して、利用者個々の居場所作りに配慮している。また、ひとりになりたい場合は居室で過ごせるよう見守りしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談して衣類、寝具類などはご本人の好み、馴染んだものを持参していただいている。居室に写真などを飾っていただくなど安心して居心地よく過ごせるように努めている。	居室は、ベッドとエアコン、防災遮光カーテン、天井からの吊り下げ収納棚が備えられている。利用者は、使い慣れた寝具一式やタンス、テレビ、家族写真等を持ち込んでいる。化粧用の机とイス、鏡を持ち込んでいる利用者があり、母国の神様の画像等を飾って自分らしい部屋作りをしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、利用者が一人で出来る事や分かりやすく目印をして安全に自由に行動できるようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームペガサス

作成日 : 令和元年5月24日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	・誤薬事故の発生、再発防止	・全職員が薬について理解を深め安全に服薬ができる。 ・誤薬予防対策、誤薬発生時における手順書の周知を行う。	・施設内勉強会の実施にて薬の効果、副作用、方法などを理解し手順書に沿って服薬支援が出来るように周知する。	6ヶ月
2	35	・夜間想定避難訓練の実施、及び災害に備えた備品の準備、利用者、職員分の食料品の備蓄が望まれる。	・夜間想定避難訓練の実施 ・災害時の食料品などの十分な備蓄を行う	・4月19日に夜間想定訓練実施済み。 年2回の消防避難訓練を計画通り実施する。 ・台風、災害時の食料品の十分な備蓄(3日分)の準備を行う。	6ヶ月
3	4	・運営推進会議への利用者の参加、及び知見者を構成委員として選任する事が望まれる。	・運営推進会議へ利用者が参加し、意見交換ができるように環境整備を行う。 ・運営推進会議の構成委員として知見者を選任する	・6月運営推進会議から利用者の参加促しを行う。 ・自治会内外から知見者の選任を行う。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。